

事業名

キッズサポートばれっと

支援プログラム (参考様式)

作成日

2034 年

4 月

1 日

法人 (事業所) 理念	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が安心できる場所の提供 子ども達の選択肢を広げる支援 家族・学校・福祉サービス事業者との連携 								
支援方針	<p>■ 子どもの 5 年後・10 年後・20 年後の姿をイメージし、ご家族様・関係者の方々と共有しながら支援を行います。親の想い、私たちの想い、子どもの現実の姿と共に、その子どもが何を望んでいるのか、どの様な「夢」や「希望」があるのかが一番重要になります。例えば、その子の夢が突拍子もない事であったとしても、可能性は「ゼロ」ではなく、可能性を覆い求めた先に「新しい夢」があるはず。私はそこに寄り添いたい。私達は、子ども達の可能性を信じて一緒に「方法」「手段」「環境」を考えます。</p> <p>■ 子どもの可能性を広げ、選択肢を増し、自己決定を行う事を大切にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> その子に合った方法を考えて環境を整えます。 少しでも選択をする幅が広がられる様に、その子に必要な力を付けて行きます。 新しい選択肢が無いのか、作り出す事は出来ないのかを考えます。 <p>■ 「出来た」を増やし自己肯定感を高める</p> <p>児童期の前期にあたる小学校低学年では、とにかく出来る事を増やして行きます。生活の事や対人関係や学習、些細な事でも「出来た」という経験を身に付けてもらい、自己肯定感を高めていきます。</p> <p>■ 青年期を迎える為の準備</p> <p>青年期では、第二次性徴期を迎える事で心身ともに大きく変化します。自立心が芽生え始め「心理的離乳」を果す時期です。しかし、その一方で「自分は何者なのか？」などといった、自己への問いをしていきます。問いへの答えを見つけ出す為に、小学生中学年から高学年にかけて「出来た」を「得意」な事にしていきます。「得意」をトレーニングして行き「苦手」をサポートしていく事により、自信を持って青年期 (中学生以上) を迎えられるようサポートして行きます。</p> <p>■ 児童期に必要なスキル</p> <p>青年期である中学生を迎える前に、必要なスキルを学びより多くの「出来た」を体験して行きます。主に小学生生活に合わせて、4つのスキル「対人スキル」「余暇活用スキル」「自己理解スキル」「生活管理スキル」を中心に成功体験を重ね得意な事へと結びつける準備をします。</p>								
営業時間	<table border="1"> <tr> <td>10 時</td> <td>00 分</td> <td>から</td> <td>19 時</td> <td>00 分</td> <td>まで</td> <td>送迎実施の有無</td> <td>あり なし</td> </tr> </table>	10 時	00 分	から	19 時	00 分	まで	送迎実施の有無	あり なし
10 時	00 分	から	19 時	00 分	まで	送迎実施の有無	あり なし		
支援内容									
健康・生活	<p>【サポート内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活スケジュールの提示 (視覚支援) → 絵カードやタイムテーブルで1日の流れを可視化し、見通しと安心感を持たせる等 基本的な生活習慣の定着支援 → 手洗い・うがい・排泄・歯みがきなどの手順を繰り返し支援し、自立を促す等 食事マナーや食行動の支援 → 姿勢、順序、適切な食具の使い方、偏食や感覚過敏への配慮 衣服の着脱・整理整頓の支援 → 上着の脱ぎ着、靴の履き替え、持ち物を指定場所に置く練習など 身体感覚や疲労への気づきを促す支援 → 「疲れたら休んでいい」ことを教え、自己管理の力を育てる等 安全行動の支援 → 「道路に飛び出さない」「熱いものに触らない」など、危険の予測と回避行動の支援等 感覚過敏・鈍麻への環境調整 → 音・光・においなどへの刺激配慮、クールダウンスペースの設置等 <p>【目的】</p> <p>日常生活に必要な基本的な生活習慣 (食事・排泄・清潔・睡眠など) を身につけ、安定した生活リズムができるように支援します。視覚的支援やモデルステップを用いて、自分でできることを増やし、見通しと安心感のある生活環境を整えることで、将来的な自立と社会参加の基盤を育てます。</p>								
運動・感覚	<p>【サポート内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 粗大運動の支援 (全身を使った運動) → トランポリン、マット運動、ケンケンパなどで体幹やバランス感覚を育てる等 微細運動の支援 (手先の操作) → はさみ・お箸・ひも通し・パズルなどで手指の巧緻性を高める等 感覚統合遊びの導入 → ハンモック、バランスボール、ボルダリング遊具などで前庭・固有受容・触覚を刺激等 感覚過敏・鈍麻への対応支援 → 過敏な子には静かな空間やイヤーマフを、鈍感な子には刺激のある素材や活動を選ぶ等 ボディイメージの形成支援 → 鏡を使った遊び、身体の各部位を意識する活動 (例: タッチゲーム) 等 姿勢保持・身体の安定性の支援 → バランスディスク、ストレッチ、体幹トレーニングなどで長時間の座位や集中の基盤をつくる等 リズム運動・音楽活動 → 太鼓やリズムジャンプなどで運動のテンポと協調運動を養う等 ルールある運動あそび → 玉入れ・リレー・ボール投げなどで順番・待つ・切り替えなどの社会性も同時に育てる等 <p>【目的】</p> <p>体を動かす中で発達に必要な感覚や運動の働きを高め、身体の使い方やバランス感覚、姿勢の保持などの基本動作を育てます。また、感覚の過敏や鈍麻など特性に応じた支援を通じて、心身の安定や集中力の向上を図り、日常生活や学習、対人関係の土台となる力を整えていきます。</p>								
本人支援	<p>【サポート内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚的スケジュールや手順書の活用 → 活動の流れや課題の手順を見える化し、見通しを持たせる等 選択肢の提示による自己決定の支援 → 「〇〇と△△、どっちにする？」など、選んで行動する力を育てる等 応用行動分析 (ABA) を基にした行動支援 → 良い行動を強化し、困った行動の背景を分析して改善につなげる等 切り替え支援 → タイマーや合図で「あと〇分」で終わることを事前に伝える等 ルールや約束の可視化 → 「やっていいこと/いけないこと」をイラストやカードで明確に伝える等 課題解決のスキル支援 → 困ったときの対応 (助けを求め、深呼吸するなど) を練習等 感情と行動のつながり理解の支援 → 「イライラしたときはどうする？」を絵カードやシナリオで学ぶ等 自己評価や振り返りの支援 → 活動後に「できたこと」「がんばったこと」を一緒に確認し、達成感を育てる等 <p>【目的】</p> <p>物事の見方や考え方、行動の選び方を学び、自分の気持ちや行動をコントロールする力を育てることで、見通しを持って行動する力や、失敗してもやり直す柔軟性、状況に応じた判断力を養い、日常生活や集団活動の中で安心して行動できるよう支援します。適切な行動がとれる環境づくりと成功体験の積み重ねを大切にします。</p>								

言語 コミュニケーション	<p>【サポート内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的支援による意思表示の促進→ 絵カード・写真・ジェスチャー・文字盤・PECSなどを用いた非音声的コミュニケーション支援等 ・質問・会話練習の支援→ 「〇〇が好き」「今日は〇〇をした」など、1対1または小集団でのやりとり練習等 ・適切な表現方法の指導→ 「叩く」代わりに「ことばで伝える」「いやです」カードを使うなど行動の置き換え支援等 ・語彙力・言語理解の支援→ 絵本の読み聞かせ、言葉あそび、単語カードなどで語彙や文の構造を学ぶ等 ・感情表現・気持ちの伝え方の練習→ 表情カードや気持ちメーターを使って「今の気持ちはどれ？」と表現を促す等 ・相手意識を持つ練習→ 「相手の話を聞く」「返事をする」など、やりとりの順番や視線の使い方を支援等 ・ロールプレイやごっこ遊び→ 店員ごっこ・バスごっこなど、役割を通じて実生活に近い会話場面を体験等 ・拡大代替コミュニケーション(AAC)の導入と活用→ タブレットやスイッチ等の機器を用いた意思表示支援(必要に応じて) <p>【目的】等</p> <p>自分の気持ちや考えを適切な方法で伝え、相手の言葉や意図を理解する力を育てます。言語だけでなく、ジェスチャー・絵カード・視線など多様な手段を活用し、意思疎通の成功体験を積むことで、コミュニケーションへの意欲や対人関係の土台を築き、集団生活や社会参加に必要な力を伸ばしていきます。</p>		
人間関係 社会性	<p>【サポート内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共の場でのあいさつや基本的なマナーの練習→ 「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」など、場面に応じた言葉の使い方を学ぶ等 ・順番・ルール・役割の理解と実践→ ゲームやグループ活動の中で「待つ」「譲る」「交代する」などを体験的に学ぶ等 ・気持ちの理解と表現の支援→ 表情カードや感情メーターを使い、自分や他者の気持ちを理解・共有する練習等 ・対人距離・接し方の支援→ パーソナルスペースの概念を教え、「近づきすぎない」「いきなり触らない」などを視覚的に伝える等 ・小集団でのロールプレイやソーシャルスキルトレーニング(SST)→ 学校や家庭での具体的な場面(例:貸して言う/嫌なことを断る)を練習する等 ・共同作業・協力遊びの実施→ 「一緒に作る」「協力してゴールする」など、目的を共有して活動する体験等 ・トラブル時の対応スキルの習得→ ケンカや行き違いが起きたときに「助けを求める」「話し合う」などの対応方法を教える等 ・成功体験を通じた自己肯定感の育成→ 「友だちと協力できた」「最後までルールを守れた」などを振り返って自信につなげる等 ・公共交通機関の使い方や買い物等 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わりの中で基本的な対人スキル(あいさつ・順番・共有・助け合いなど)を身につけ、安心して集団生活や社会に参加できる力を育てます。 ・遊びや共同作業、ロールプレイなどを通じて、他者の気持ちを理解し、自分の気持ちを適切に伝える方法を学び、豊かな人間関係の土台を築きます。 		
家族支援	<p>【サポート内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別面談・相談支援(育児の悩みや発達に関する相談対応) ・家庭での関わり方のアドバイス(声かけ・遊び・学習支援の方法) ・ペアレントトレーニング(子どもとの関係構築や対応スキルの向上) ・家族同士の交流会・勉強会(保護者向けの情報共有やネットワーク構築) ・きょうだい支援(障害のある子どもの兄弟姉妹への心理的ケア) <p>【目的】</p> <p>保護者が子どもの成長をサポートができるよう支援し、家庭全体で子どもを支える環境を作ります。</p>	移行支援	<p>【サポート内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学・進路相談(学校選択や適応支援) ・職業体験・実習の協力(企業・作業所での実習) ・日常生活スキルの向上(通学・通勤の練習、金銭管理など) ・病院との連携(カンファレンス実施・リハビリ見学) ・学校との連携(特別支援学校の担任と年1回以上情報交換) <p>【目的】</p> <p>将来の進学・就労に向けて、サポートを行い社会の中で自立できる力を養います。</p>
地域支援・地域連携	<p>【サポート内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉・教育機関との連携(学校・児童相談所・医療機関との連携) ・地域イベントへの参加(お祭り・スポーツ大会・ボランティア活動など) ・地域ボランティアの受け入れ(学生や地域住民との交流) ・企業・福祉団体との協力(職業体験や社会参加の機会の提供) ・地域の支援リソースの紹介(利用可能な行政サービスの案内) <p>【目的】</p> <p>地域社会と連携しながら、子どもたちの社会参加を促進し、将来の自立につながる支援体制を構築する。</p>	職員の質の向上	<p>【取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な研修・勉強会の実施(発達障害・療育の最新知識の習得) ・ケースカンファレンスの実施(支援方法の共有・検討) ・外部研修の受講(他施設との連携や先進事例の学習) ・スーパービジョン・コーチング(経験豊富な指導者からのアドバイス) ・職員間の情報共有強化(定例ミーティング、記録の適正化) <p>【目的】</p> <p>支援の質を向上させ、子どもたちに最適な支援が提供できるよう、職員のスキルアップを実現します。</p>
主な行事等	<p>■ 夏祭り</p> <p>夏祭りは、季節を感じながら楽しく参加できる行事として、児童と職員と一緒に準備を進めます。手作りの屋台や飾り付け、遊びコーナーをみんなで作り、当日はヨーヨー釣りやかき氷などを体験します。自分で選び、やり取りすることで、社会性や主体性を育てます。非日常的な空間の中で笑顔や交流が生まれる、思い出深い行事です。</p> <p>■ クリスマス会</p> <p>クリスマス会では、飾りや小道具、出し物などを職員と児童と一緒に準備し、季節感と達成感を味わえる行事とします。サンタの登場やプレゼント交換、歌やゲームなどを通じて、他者との関わり方や感謝の気持ちを学びます。みんなで協力して作り上げる体験を通して、思いやりや楽しさを実感できるあたたかい時間を提供します。</p> <p>■ 祝日特別プログラム</p> <p>祝日プログラムでは、調理・果物狩り・外出など、日常と異なる体験を通じて生活力や社会性を育てます。調理では買い物や下ごしらえを協力しながら行い、完成した料理と一緒に楽しみます。果物狩りや外出先では公共マナーやルールを学びます。準備段階から児童が関わることで、選ぶ・考える・協力する力を自然に育てます。</p>		